

1) 先学期までの研究

テーマ：宝塚歌劇団における世界観の構築
—ミュージカル『ロミオとジュリエット』

にみる宝塚歌劇団の演劇手法—

比較メディア：

- ・「ロミオとジュリエット」(日本)
潤色/演出：小池修一郎
収録日：2010 年 7 月 21 日
- ・「Romeo & Juliette-Les Enfants De
Verone」(フランス)
2011 年版

発生した問題点：

- ・作品の差が予想以上にわずかだった
- ・自分の言語能力

2) 研究の変更

テーマ：

ミュージカル作品の表現方法と可能性
—『ベルサイユのばら』の受容と脚色—

3) 研究背景と目的

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、
韓国、と様々な国でその国を代表するミュー
ジカルが次々と生み出されている中で、
日本を代表するミュージカル作品といえる
ものは存在していない。日本において上演
される作品の多くが海外ミュージカルであ
り、それらが数多くのヒットを生み出して
いる。(『ウィキッド』、『オペラ座の怪人』、
『キャッツ』、『エリザベート』、『レミゼラ
ブル』など)

日本におけるオリジナルミュージカルで大
きくヒットした作品といえるものの一つに
『ベルサイユのばら』という作品がある。
この作品は漫画のみならず、ミュージカル
も日本中に『ベルばら』ブームを巻き起こ
し、さらには『宝塚歌劇団』ブームも巻き
起こした作品である。さらに宝塚歌劇団は

日本では有数の常に新たなオリジナルミュー
ジカルを作り続けるミュージカル劇団で
もあり本年度 100 周年を迎え、日本でもつ
とも長く続いているミュージカル劇団でも
ある。そんな宝塚歌劇団の代表作でもある
この作品が 1970 年代の日本にどのように
受容されたのか。そしてどのようにミュー
ジカルへと変わったのかの 2 点を漫画『ベ
ルサイユのばら』とミュージカル『ベルサ
ユのばら』の比較を行うことで答えを探
るとともに、この比較を通して、ミュー
ジカルというメディア媒体の表現方法と可能
性について考えていきたい。

またこの研究を通して、ミュージカルの特
徴、ミュージカルの可能性、また日本にお
ける受容されやすいミュージカルについて
何らかの答えを得ることで今後の自分のミ
ュージカルの創作活動に生かしていきたい。

4) 手法

I 作品分析

- ・『ベルサイユのばら』(漫画) 集英社
池田理代子著
- ・『ベルサイユのばら』(ミュージカル)
宝塚歌劇団 植田紳爾(脚本・演出)

II スクリプト比較

同上

III インタビュー調査

2013 年『ベルサイユのばら—フェルゼン編
—』の映像を担当した奥秀太郎氏にインタ
ビュー

5) 今後の計画

- ・数多くの『ベルサイユのばら』(ミュー
ジカル作品)がある中でどれを選ぶのか
- ・作品分析
登場人物の役割、シーンごとの役割、
全体の構成